

平成26年度入学時アンケート調査

下川 俊彦

Toshihiko SHIMOKAWA

九州産業大学 情報科学部 情報科学科

Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
toshi@is.kyusan-u.ac.jp

1. はじめに

情報科学部では、新入生の入学動機、大学での勉強に対する意欲などを把握するため、平成22年度より入学時アンケートを実施している。アンケートは無記名式で、必修科目「情報科学序説」1回目の授業中に回答してもらっている。平成26年度は5回目の実施となった。本稿ではその実施内容と結果を報告する。

2. 実施内容

アンケートは全部で11の設問からなる。

- (1) 情報科学部に入学した動機
- (2) 情報科学部の志望順位
- (3) 志望大学・学部を決めた時期
- (4) 第1志望大学
- (5) 情報科学部で勉強したいこと
- (6) 興味のある職業・分野
- (7) 友達の大学選択の理由
- (8) 合格した入試種別
- (9) 情報科学部の名称について
- (10) 大学院の認知度
- (11) 大学院進学への意欲

設問によって順番付け、丸付け、記述式など回答形式が異なる。上記の設問のうち、設問1,5,6が順番付け方式、設問2,3,7,8,9,10,11は丸付け方式、設問4は記述式である。

3. 結果

回答数は140。対象学生142名に対して、98.6%であった。集計にあたって、順番付けの場合は、1位を3点、2位を2点とし、3位以降は1点と計上している。

入試区分別の回答の違いを分かりやすくするため、推薦入試およびAO入試と、一般入試などそれ以外の入試による合格者を分けて集計している。本稿においては、前者を推薦入試等合格者、後者を一般入試等合格者と呼ぶことにする。ただし、設問8に対する回答がなく、入試区分が不明な回答が20名分あった。本稿では、この20名分の回答については集計の対象外とした。以下、設問の内容及び選択肢の詳細について集計結果と合わせて報告する。

3.1 情報科学部に入学した動機について

情報科学部に入学した理由を以下の選択肢から、最も強い理由を3つまで順番付けして回答する。

- 学びたい分野の授業科目があるから
- 就職状況がよいと聞いたから
- 高校の先生の勧めがあったから
- 親や兄弟など家族の勧めがあったから
- 先生や事務の人の面倒見がよいと聞いたから
- 授業に対する学生の満足度が高いと聞いたから
- 知名度が高かったから
- 目指す資格や免許が取得できるようだから
- 周囲の評判がよいから
- 就職支援体制が充実していると聞いたから
- 偏差値が適合していたから
- 専門教育が充実していると聞いたから
- 幅広い教養が身につくと思ったから
- ブランドとしての魅力があるから
- 福岡では一応名の知れた大学だから
- 面倒見の良い大学と聞いたから
- 実習などが充実していると聞いたから
- 語学教育に力を入れていると聞いたから
- 他の大学より学費が安かったから
- 先輩が学んでいる大学だから
- 家族や親類の出身大学だから
- 国際性が身につくと思える大学だから
- スポーツ活動が盛んだから
- 奨学金制度が充実しているから
- 他大学との交流が盛んだから
- オープンキャンパスに来てみて、良さそうに見えたから
- その他

集計結果を図1と図2に示す。各項目の数値は、本章冒頭で説明した順位に基づく点数の合計である。受験種別に点数の多いものから順に整列した。

一般入試等合格者においては、「学びたい分野の授業科目がある。」「偏差値が適合していたから」「目指す資格や免許が取得できるようだから」の3項目の点数が高かった。推薦入試等合格者においては、「学びたい分野の授業科目がある。」「オープンキャンパスに来てみて、良さそうに見えたから。」「目指す資格や免許が取得できるようだから」の3項目の点数が高かった。

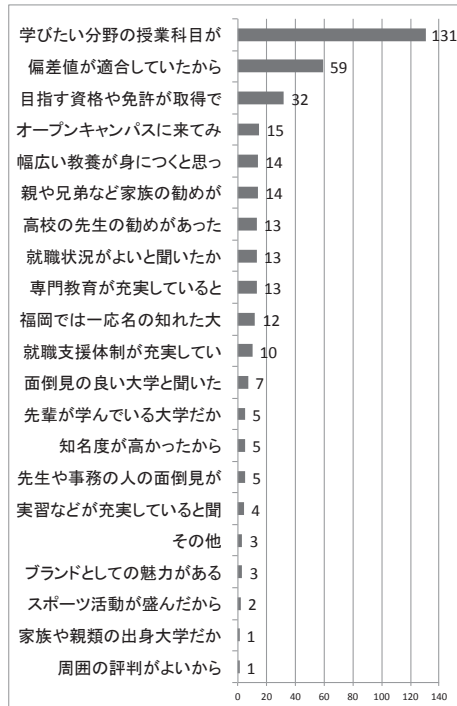


図1 入学理由 (一般入試合格者)

その他の項目としては、「学習しやすい環境が整っているから。」「付属校だったから」「自宅から通える範囲にあったから」などの回答があった。

全般的に見ると、授業科目や免許・資格に関するものなど、教育内容に関する項目と、オープンキャンパスや先生や家族の勧めなどに関する項目が、入学した理由として大きいことが分かる。



図2 入学理由 (推薦入試合格者)

3.2 情報科学部の志望順位について

情報科学部は第何志望であったかの質問に対する集計結果を図3に示す。数値は、入学種別に、各順位を回答した人数の割合である。

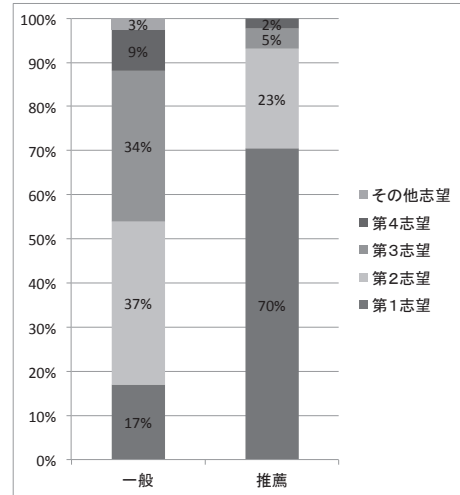


図3 情報科学部の志望順位

一般入試合格者においては、第1志望から第4志望まで回答が分散しており、第1志望の回答はやや少なめであった。推薦入試合格者においては、第1志望の回答が7割を占めた。

3.3 志望を決める時期について

志望大学・学部を決める時期についての質問に対する集計結果を図4に示す。数値は、入学種別に、各時期を回答した人数の割合である。

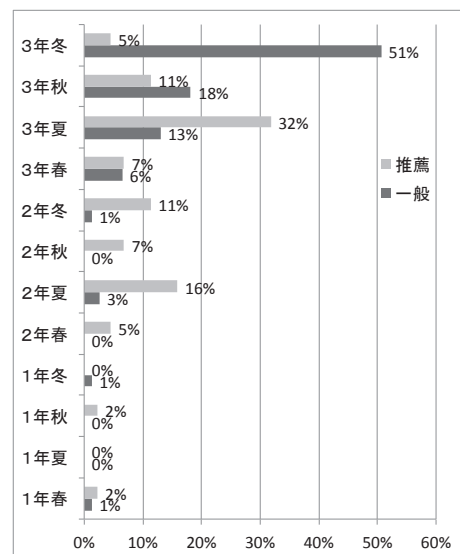


図4 志望を決める時期

一般入試合格者においては、3年次の冬に決める人が最も多く半数を超えていた。推薦入試合格者におい

では、3年次の夏に決める人が最も多い。これは、それぞれ入試が実施される時期の直前となっていると考えられる。

その他の回答としては、「浪人中の夏」「浪人中の秋」などがあつた。

3・4 第1志望大学

第1志望大学についての質問に対する集計結果を図5と図6に示す。数値は、各大学と回答した人数である。受験種別に回答者数で整列した。



図5 第1志望大学 (一般入試等合格者)

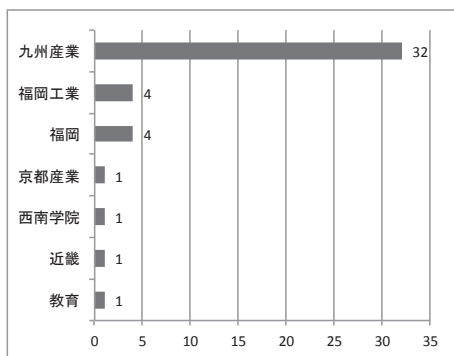


図6 第1志望大学 (推薦入試等合格者)

一般入試等合格者においては、福岡工業大学が1位であり、2位の本学と3位の福岡大学の差は1名であった。

推薦入試等合格者においては、本学が1位であった。

3・5 情報科学部で勉強したいこと

情報科学部で勉強したいことを以下の選択肢から、順番付けして回答する。

- エクセルやワードなどの使い方
- コンピュータグラフィックの作り方
- プログラムの作り方
- 種々のプログラム言語の使い方
- ネットワークについて
- ホームページの作り方
- その他

集計結果を図7に示す。各項目の数値は、本章冒頭で説明した順位に基づく点数の合計である。

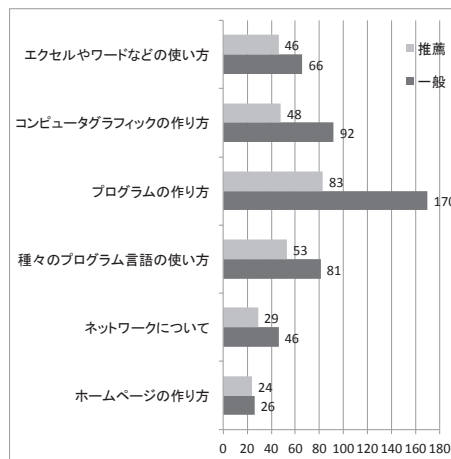


図7 勉強したいこと

入試区分に関わらず、「プログラムの作り方」に対する興味を持つ学生がもっとも多かった。昨年度は「プログラムの作り方」に対する興味は、いずれの入試区分でも3位以下であったことと比べると大きな変化である。「コンピュータグラフィックの作り方」や「種々のプログラミング言語の使い方」は、昨年度同様、高い順位であった。その他として、「教員の免許」や「数学」といった答えがあつた。

4. 興味ある職業・分野

情報科学部では学生の職業選択をイメージできる履修モデルを掲げ、情報科学・情報技術の教育を行っている。この設問は新生に将来の職業に対する意識を聞く設問であり、情報科学部の履修モデルに合わせて以下の選択肢を設けている。これらから順番付けして回答する。

- システム開発ができるエンジニア
- 組込みシステムエンジニア
- ネットワークエンジニア

- Web、CG デザインなどコンテンツ分野で活躍できるエンジニア
- 情報システム運用管理者
- 教員や情報科学研究者
- その他

集計結果を図8に示す各項目の数値は、本章冒頭で説明した順位に基づく点数の合計である。

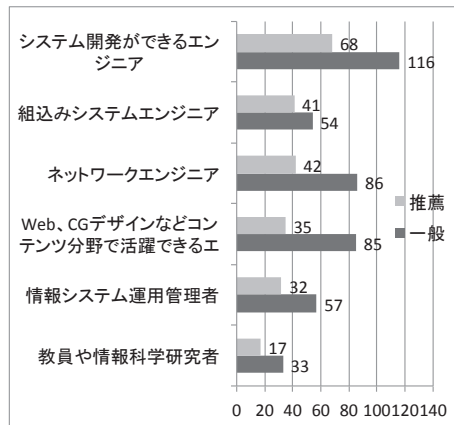


図8 興味ある職業・分野

入試区分に関わらず、システム開発、ネットワーク、コンテンツ分野、組み込みシステムに興味をもつ学生が多いことが分かった。

5. 友達の大学選択の理由

各学生の友達が、どのような理由で大学を選択していると思うかを、以下の選択肢で聞いた。

- 評判の良い大学
- イメージのよい大学
- 面倒見の良い先生や事務の人たちがいるとの評判の大学
- 先輩たちからすすめられる大学
- 親からすすめられる大学
- 先生からすすめられる大学
- 授業内容のよい大学
- 学生の質のよい大学
- ファッションに敏感な学生のいそうな大学
- 先生たちがテレビなどで活躍している大学
- 先端の研究を行っている大学
- よく宣伝を行っている大学
- 大学の名前がすぐ頭に浮かぶ大学
- 教育のレベルの高い大学
- 先生たちの研究
- その他

本質問は各学生の友人に関する問いであり、入学種別に無関係と考えられるので区別せずに集計した。集計結果を図9に示す各項目の数値は、各項目を選択した人数

の合計である。

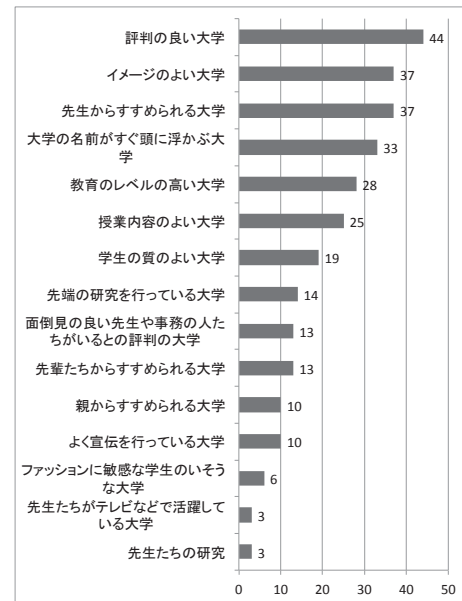


図9 友達の大学選択の理由

評判、イメージ、知名度などが重視されていることが見て取れる。また先生からの推薦も大きな要因となっていることが分かる。その他としては、就職率や学力・偏差値という回答があった。

6. 入学試験種別

合格した入学試験の種別を以下の選択肢で聞いた。

- 推薦入試
- AO入試
- 一般入試
- センター試験利用入試
- 一般入試・大学入試センター試験併用型入試
- 特別入試(社会人入試・帰国子女入試・留学生入試)

集計結果を図10に示す。各項目の数値は、各項目を選択した人数の合計である。一人で複数の入学試験種別に合格している学生が居るので、合計した値は、回答者数を超える。

7. 情報科学部の名称

情報科学部の学部名称について以下の選択肢から当てはまるものを聞いた。複数選択が可能である。

- 情報科学部という名称は、どのような内容の教育が行われているかがイメージできる名称と思う
- 情報科学部の名称だけでは、どのような教育が行われているかが分かり難い
- その他

集計結果を図11に示す。各項目の数値は、各選択肢を選んだ人数であり、各選択肢が選ばれた割合をグラフと

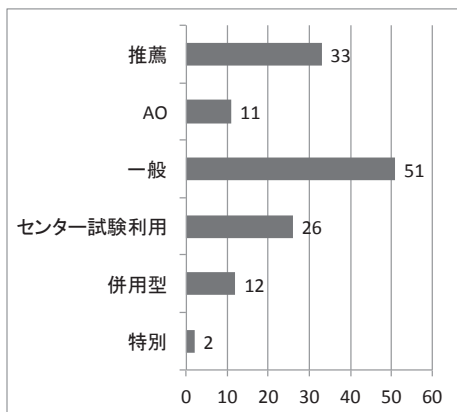


図 10 合格した入学試験種別

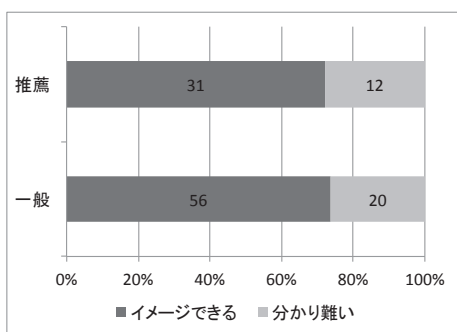


図 11 学部名称

して示した。

入学試験種別に関わらず、7割の学生が学部の教育内容がイメージできる名称だと考えていることが分かった。

8. 大学院の認知度

九州産業大学大学院情報科学研究科の認知度について、以下の選択肢で聞いた。

- 知っていた
- 知らなかった

集計結果を図 12 に示す。各項目を選択した学生の割合を示す。

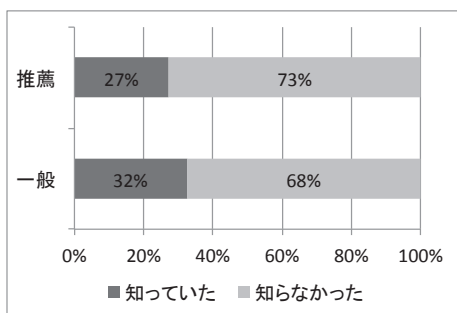


図 12 大学院の認知度

一般入試等合格者への認知度のほうが若干高いものの、いずれも3割程度である。新入生に対する、大学院情報科学研究科に対する認知度を高めていく必要がある。

9. 大学院進学への興味

大学院への進学への興味について、以下の選択肢で聞いた。

- 興味がある
- 興味はない

集計結果を図 13 に示す。各項目を選択した学生の割合を示す。

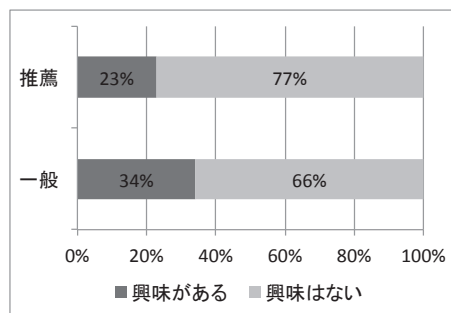


図 13 大学院進学への興味

一般入試等合格者においては3割を超える学生が興味を持っている一方で、推薦入試等合格者においては2割程度の学生が興味を持っていることが分かった。

10. 終わりに

本稿では平成26年度新入生を対象とした入学時アンケートの結果について報告した。全体的な傾向としては、昨年と大きな変化はないといえる。大学で学びたいこととして、プログラムの作り方の順位が上がってきているのは喜ばしいことであろう。興味ある職業・分野としてもIT系のエンジニアの順位は高い。これが実際の就職活動に結びついていない現状については、教育内容などについての継続的な改善が必要であろう。